

### Ⅲ. 成果と課題

#### 1. 授業実践から

##### 視点(1)主体的に言葉にかかわらせる指導の工夫

成果(有効かつ継続可能な手立て)	課題・改善点
❖ 児童の感想や疑問から課題や学習計画を設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 課題や学習計画は初発の感想や疑問を取り上げ、予め作成しておく。</li> <li>→ 教室に掲示する学習計画は大きく見易いものにする。</li> </ul>
❖ 板書の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 物語文での挿絵の活用</li> <li>➢ 構造的な板書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 重要語句にこだわる意味でも板書をノートに書かせたい。</li> <li>→ 重要語句は板書する。</li> <li>→ ノートにつながる構造的な板書を意識していく。</li> </ul>
❖ 意見交換の場の設定	→ 友達の発表を聞く視点をアドバイスしておく。
❖ 字数指定のワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 教科書の要約だけでなく、自分の考えや思いをもつことも大切。</li> <li>→ 書かせる分量を実態に即して考えることも大事。</li> <li>→ スモールステップで取り組めるワークシートの作成</li> <li>→ ワークシートの蓄積と評価</li> <li>→ ワークシートと板書の一体化</li> </ul>
❖ 重要語句(キーワード)の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 提示した語句は意図的に強調表示する。</li> <li>→ 押さえるべき重要語句を明確にしておく(接続詞・助詞等)。</li> <li>→ 重要語句(キーワード)か重要な文(キーセンテンス)か明確にして提示する。</li> </ul>

##### 視点(2)文章を正しく読み取らせる指導の工夫

成果(有効かつ継続可能な手立て)	課題・改善点
❖ サイドラインの活用 *「重要語句」と関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ サイドラインを引かせる意図や観点を明確にする。</li> <li>→ サイドラインの種類や色、量に一工夫加える。</li> <li>→ 低学年から系統的に指導を積み重ねる。</li> </ul>
❖ 音読の充実	→ 追読と一人読み、丸読み等、効果的に使い分けていく。
❖ フラッシュカードによる繰り返し学習	—

### 視点(3)言語環境の整備

成果(有効かつ継続可能な手立て)	課題・改善点
並行読書の本を確保(図書室・上杉文庫・市立図書館・県立図書館)	→ 授業のバックボーンとして存在していると捉えることもあるので授業での扱いに注意する。
「読書カード」の作成と活用	—

## 2. 職員アンケートより

### 《成果》

- その時間のキーワードを担当も児童も意識するようになったことです。また、新しい教科書の内容や進め方を学ぶ機会となりました。
- 今年度実施をして見て、
  - ①「学習計画」の作成(名前の統一をすれば良いと思います。)
  - ② 取り組ませる手立ての整理(重要語句)
  - ③ 話合いのさせ方(ペア、グループ、小集団など)
 この3つが大きな取組で、整理ができた。方向性ができたことが何より。
- 児童の意識調査の結果から、国語の学習への良好な意識を感じとることができた。国語の学習が好きと答えた児童が前回より30%も増えていた。また、物語文と説明文を読むことに関してもそれぞれ上昇していた。
- ① 学習計画表の活用 ② 学習課題の提示 ③ 考えさせる手立てとしてのワークシートの改良を各学年で取り組むことができた。
- 今年度は「やってみる」年と考え、2年生からの授業をリレーでつないでいくことができました。以下のようなことが成果と感じている。
  - 学習計画を示すことで見通しが持て、学習意欲につながる。
  - サイドラインを引くことを低学年から取り組むことで、大事な言葉に着目する習慣づけができる。
- 授業の目的(課題解決)を考えながら、重要語句(キーワード)を意識した授業が展開された。これを継続していくことが大切だと思われる。
- 視点、手立てが絞られていたので、参観した学年の取り組みや成果を自分の授業にも生かすやすかった。1年目の研究で取り組みやすい視点や手立てだったと思う。
- どの学年においても文章中の大切な語や文を抑えるためにサイドラインを活用していた。サイドラインの活用により大切な語や文を認識しやすくなったと感じた。今後、自分も授業の中で積極的に行っていきたい。
- 写真や挿絵といった視覚的教材を活用することで、登場人物の心情や場面の様子を想像することにつながると感じた。
- 課題意識を持たせながら、音読活動を取り入れる工夫がみられた。考えたことを発表し合い自分の考えを広げたり深めたりできていた。説明文の重要な働きをする接続詞の押さえがしっかりしていた。

### 《課題》

- 「読むこと」をとらえることが難しかった。読み取ること、音読、読書など、様々なアプローチがあり、学年や発達段階に応じて指導することは大切だが、石越小学校として何を大きく掲げてきたのかがつかみ取れないまま1年が終わってしまった。

- 研究授業数減...でしょうか...。検証するにもなかなか明確にできず、課題のリレーの意識が薄かった。
- 全員で教材を読み込めなかったのが残念。(今年は仕方がないですが)
- 「ノートづくり」について考えたいと思いました。ワークシートの活用も良いと思うのですが、単元を通したノートづくり、板書を生かしたノートづくり、自分の考えをまとめる(深める)ノートづくりについて考えていきたい。
- 子供たちの読む力の低さを引き上げる外堀の活動についても、系統立てながら統一した取り組みが必要だと感じた。(音読のさせ方、読書活動、辞書の活用、家庭学習など)
- 1年生から6年生まで、共通しての柱が必用。例えば、説明文を取り扱うなど。
- 教科書や評価が変更になったいまがチャンスなので、そこを重点的に追究したい。
- 国語辞典の活用や図書館の活用など、指導時数の中で全員に指導ができたとは言えず、個人差が大きくなり、取り組むことができた手立てが偏ってしまった。
- 言葉のつながり、文と文のつながりを表す語の認識、理解が難しいと感じた。教師の発問からすんなり見つけることができない子や、その言葉の意味を理解できていない子が少し見られた。言葉に注意をさせる際は、端的でわかりやすい発問を考えたい。
- 意味内容を追う授業展開になり、読むことへの意欲付けも大切だと感じた。
- 正確に意味のまとめりごとに早く「音読」ができることが基本になると感じた。
- 以下の3点について改善策を立てることが大切。
  - 1) 学習計画を作るにあたっては、「個人持ち」「大きく表示」「どんな内容を？」といった共通でできることと、単元などで分けるなどの整理が今後必要。
  - 2) サイドラインの付け方も、ある程度統一する取り組みやすい。
  - 3) 話合いは、計画的・継続的に取り組まないと力になりにくい分野なので、どの単元で、どの話合いをするか、話合いをこの学習では入れる、といった大きな計画があると、取り組みやすい。

## 令和3年度の研究について(案)

### ○ 主題・副題

「確かな読みの力を身に付け、主体的に言葉に関わる児童の育成」  
～ 国語科における「読むこと」の指導の充実を通して ～

### ○ 目指す児童像

「確かな読みの力を身に付け、  
主体的に言葉に関わりながら、思いや考えを広げる子ども」

### ○ 研究の視点

#### (1) 「やるぞ！」を引き出し、主体的に言葉にかかわらせる指導の工夫

- 児童の「問い」を解決する、単元を通じた学習計画・課題づくりと活用
- 成就感・達成感を味わわせる学習の振り返りと評価

#### (2) 「そうか！」「なるほど！」に導く、確かな読みの力を育む指導の工夫

- 学習や活動の目的を明確に示す発問
- 子どもの思考を促す板書づくりとノート指導。
- 意見を交流し、自分の思いや考えを深めることができる場の設定
- 教材文をより深く読み取る手立て
  - サイドラインの活用(重要語句の意識)
  - 読み取りスキル向上(説明文・物語文)
  - 品詞の理解(主語・述語・動詞・形容詞・形容動詞等)

### ○ その他

- 1) R2年度の視点(3)の内容を、子どもたちの学びを支える力として研究構想図に明記し、日常的に取り組む。

#### 《言語環境の整備》

- 図書館教育との連携
- 環境構成(教室掲示・廊下掲示)の工夫
- 授業における合理的配慮
- 学習を支える力の伸長
  - 音読の奨励
  - 国語辞典や新聞の活用
  - 短時間で無理なく取り組める繰り返し学習